

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351/5581(輸血部長室)

Internet:www.aids-chushi.or.jp

平成21年度 第2回エイズ拠点病院 オープンカンファレンスのご案内

日時：2009年10月21日(水) 18:00~19:00

場所：広島市立広島市民病院 1階栄養教室

18:00~18:30

講義：「HIV感染症と悪性腫瘍」

担当：高田 昇先生(広島大学病院 エイズ医療対策室)

18:30~19:00

症例検討：「ニューモチシス肺炎で発見されたHIV症例」

担当：親川拓也先生(広島市立広島市民病院 呼吸器内科)

対象：広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院の
医療従事者

共催：広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院

事前申し込みは必要ございません。直接会場へお越し下さい。
お問い合わせは、エイズ医療対策室(内線5351)まで。

目次：

平成21年度 第2回エイズ拠点病院 オープンカンファレンスのご案内

『HIV検査について Ver.4』 1

『HIV検査の勧め方 告知の仕方 Ver.2』を発行のご案内

HIV検査の勧め シリーズ 2



『HIV検査について Ver.4』、

『HIV検査の勧め方 告知の仕方 Ver.2』を発行しました。



『HIV検査についてVer.4』、『HIV検査の勧め方告知の仕方Ver.2』を厚生労働省の研究班の事業として発行しました。

HIV感染症患者数は年々増加しており、エイズ発症状態で感染が判明する例も増えています。

HIV感染症を疑う病態があれば、早期に検査を勧めることが必要です。

そこで『HIV検査についてVer.4』をHIV感染のリスクを考えて検査を行う医療者の為のガイドブックとして作成しました。また、『HIV検査の勧め方告知の仕方Ver.2』は、HIV検査の提案やHIV検査結果の告知に初めて当たる医療者の不安を取り除き、誰でも上手に対応できるようになる事を目的に作成しました。

是非ご活用頂き、ご利用になったご感想やご意見をお聞かせ下さい。

(エイズ医療対策室 喜花伸子)

この冊子をご希望の方は、エイズ医療対策室までご遠慮なくご連絡ください。(内線5581)

HIV検査の勧め シリーズ ～ HIV急性感染症を見逃さないで！ ～

HIV感染者にみられる併発症状

HIVに感染し、やがて免疫能が低下していくと、エイズの指標疾患ほどではないものの、軽微な症状が現れることがあります。口腔カンジダ症、繰り返す帯状疱疹、体重減少、慢性の下痢、慢性リンパ節腫脹、血小板減少症、白血球減少症などです。

これだけでHIV感染を想起するのはなかなか難しいでしょう。しかし、HIV感染者で併発することが多い病歴、特に梅毒、クラミジア、尖圭コンジローマなどの性感染症、赤痢アメーバ症、ウイルス性肝炎(A型、B型、C型)などが明らかなら、HIV感染症を強く疑ってよいでしょう。



HIV検査はどんなときに勧めるか

症状がある場合

言うまでもなく、エイズ指標疾患の症状が強く疑われる疾患では、HIV検査を実施しなければなりません。エイズではないけれど、軽微な症状があるもの、急性感染症、性感染症やウイルス性肝炎がある場合も検査を勧めて頂きたいと思います。

「あなたの症状はエイズの原因であるHIVとよく似ているので、血液検査を受けてみませんか」と勧めて頂くことが良いでしょう。性感染症がある場合は保険上もHIV検査の適応となっています。

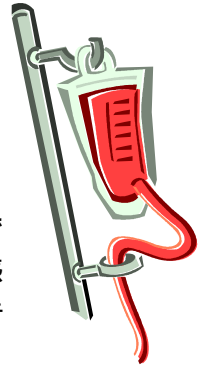
もちろん無理強いする必要はありませんから、患者が固辞しているのに無断で検査をしてはいけません。大切なことは日常診療の現場でHIVについての情報を提供し、検査を受ける機会を提供できること

なのです。文書による同意書は不要ですが、診療録に必要事項を記載しておく必要があります。

輸血と術前検査

輸血療法を実施したら3ヶ月後を目途にHIV検査を実施することが勧められています。

東京、神奈川、千葉、埼玉などでは術前検査や内視鏡検査の前にHIV感染が見つかる例が多くなったと報告されています。



無症状の検査希望者

難しいのはまったく無症状で、性感染の既往もない場合です。HIV感染症は過去には血液感染もありましたが、現在は防護のない性行為による感染がほとんどですから、この層への検査普及がポイントになります。

感染の危険がある行為があったとしてHIV検査を希望するクライアントに、検査を提供するのは良いことです。しかし県によっては保険請求をすると査定を受けてしまう可能性があります。保健所の無料・匿名検査を勧めればよいでしょう。



平成20年度に広島県内の保健センター等でHIV検査を受けた人数は3,895件で、この中から陽性者が7件(0.17%)見つかりました。

これは献血での陽性率の約100倍にあたります。医療機関での発見率は、この中間あたりになると推定されます。

(エイズ医療対策室長 高田 昇)

<ご意見募集>

ご意見やご希望がございましたら、

エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。